

建築設計競技 EUROPAN における公共建築の設計者選定手法に関する研究
その 2：応募から竣工までの運営体制

建築設計競技 EUROPAN 公共建築
設計者選定手法 運営体制

正会員 ○梅田 伶緒 *
同 脇坂 圭一 **
同 恒川 和久 ***
同 西山 雄大 ****
準会員 浦上 穰 *

1. 研究の概要

その1では設計者が関わる前段階として、1) パートナーからの土地提供と資金供給を基に多分野のメンバーで設計競技が行われていたこと、2) テーマ決定までに本部と支部による審査会での議論があったこと、3) テーマと敷地の相互関係が設定され、EUROPAN が多国間の協働による設計競技であること、以上を把握した。本稿では、欧州において若手建築家が公共建築に参画するための仕組みとして機能している建築設計競技 EUROPAN の中でも特にフランス、スペイン、ドイツに着目し、応募から竣工までの運営体制を把握することを目的とする。

2. 研究方法

2-1. 本研究の方法

その1と同様に文献調査^{文1)文2)}とヒアリング調査^{注1)}を行い、応募条件(表1)、提出物(表3)、E17 設計競技の日程(表4)、審査の手順(図1)、参加数に対する受賞チーム数の絞り込み数(表5)、竣工した事例(表6)について整理した。

3. E17 の応募条件と提出物

3-1. 応募条件について

1) 建築家がチームにいること、2) チーム全員が 40 歳以下であることが条件であった(表1)。また、学士号または同等の資格の有無は、国により異なっていた(表2)。なお、フランスでは5年以上、スペインでは6年、ドイツでは、4～5年の教育プログラムを受けた後、1～2年の実務経験が必要となっていた^{文3)}。

表 1. 応募条件

1. 職業	少なくとも1人、大学を卒業した建築家がチームにいること。同じまたは関連する分野の1人以上の専門家。
2. 資格	建築家・都市計画家・ランドスケープアーキテクト・エンジニア・アーティストまたは社会学・地理学・生物学・環境学・生態学または各分野で学士号または同等の資格を持つ1人以上の学生。
3. 年齢	すべての応募者は40歳以下。

3-2. 提出物について

提出物は、プロジェクトパネルを主として4つまたは5つとなっていた(表3)。

表 2. 建築家登録制度

	フランス	スペイン	ドイツ
教育機関での年数	5年以上	6年	4～5年
実務経験	無	無	1～2年
試験	無	無	無

※教育機関での年数は、教育期間中に実務訓練期間があり学業を中断する制度を有する国もあるがその期間は含まない。

表 3. 提出物

1	プロジェクトが視覚要素で構成される3つの縦A1プロジェクトパネル。
2	プロジェクトのアイデアを示すイラスト入りテキスト1枚(最大4ページ-A4縦)。
3	チームメンバーの適格性を証明する書類。(40歳以下の照明)
4	公式HPで公開するための書類(画像3枚+800字の短いテキスト)。
5	結果発表後、受賞者は受賞作品をYoutube等で紹介するためのビデオ1本。

4. E17 の設計競技の日程と審査の手順からみた運営体制

4-1. E17 の設計競技の日程について

縦軸に13のプロセスを置き、横軸に日付、期間、テーマ・敷地、審査、費用を置き、各プロセスを整理した(表4)。まず期間に着目すると、設計コンペ自体は1年間で終了し(通しNo.1～12)、その後の実施プログラムと並行して次の設計競技の準備期間が設けられていた(通しNo.13～14)。準備期間143日、募集(設計)期間203日(通しNo.3～6)、審査期間が一次審査から二次審査まで98日(通しNo.7～12)であった。テーマ決定の時に本部と支部が集まる審査会(フォーラム)を本部が開催し、その際に支部が7～9人の審査員を選出していた(No.1)。審査は、まず国内審査員が一次審査が行い、次に本部が審査会(フォーラム)を開催していた。審査会で科学委員会と技術委員会が支部に対して審査基準を示していた(No.10)。最終的に、国内審査員により二次審査で受賞チームが決定する流れであった(No.11)。費用は登録、提出各100ユーロ、修正50ユーロ。報酬は1位1万2千ユーロ(日本円で約200万円^{注1)})、2位6千ユーロ(日本円で約100万円)であった。

4-2. 審査の手順について

審査員は支部によって選出されていた(図1①)。建築家によって提出された作品(図1②)を国内審査員が一次審査・二次審査を行い、受賞チームが決定(図1③、⑤)していた。また、一次審査と二次審査の間には審査会(都市・審査員フォーラム)が設けられていた(図1④)。本部により結果がEUROPANのHPに公開されていた(図1⑥)。その後、各支部とパートナー関係にあるアドバイザー機関が受賞チームに対して実施プログラムの支援を行っていた(図1⑦)。

5. 受賞チーム数の割合と竣工した事例について

5-1. 参加数に対する受賞チーム数の割合

E1からE17の1)敷地数、2)登録数、3)参加数、4)参加率、5)一次審査通過数、6)各受賞チーム数を整理した(表5)。まず、1敷地に対する参加数の平均を、全体の参加数を敷地数で除して求めた。参加数に対して一次審査で20%程度に絞られ、最終的に一次審査通過数から60%程度に絞られていた。

5-2. 竣工した事例について

設計競技から竣工までの年数をみると(図2)、各事例によって年数にばらつきはあるものの、平均値は8年であり、用途としては、集合住宅、公園、宿泊施設、集合住宅と複合した施設、その他の施設に分類できた。集合住宅は18件で、全

6. 総括

EUROPAN では設計者の実績を求めず、また設計期間が 203 日と長く、若手建築家が公共建築に参画しやすい体制であった (3-1)、(4-1)。アドバイザー機関が実施プログラムの支援を行うことによって、実績の乏しい若手建築家であっても建築の質を担保出来る体制が整えられていた (4-2)。一次審査通過数は約 5 組であり、受賞チーム数は 3 組程度となっていた (5-1)。設計から竣工までの期間は 8 年以上で長い期間を費やしていた (5-2)。

謝辭

本研究は科学研究費基盤研究 (B) (2024-2027)「質の高い建築の調達のための設計者選定手法に向けた行政と支援組織の体制に関する研究」(代表者: 脇坂圭一)の助成を受けた研究の一部である。

注釈

注1) 2024年11月14日のレートにより1ユーロ164.03円で換算した。

参考文献

文 1) EUROPAN の公式 HP

文2) 「EUROPAN 8 ~ 17 RESULTSE」 European Europe、2006 ~ 2024

文3) (公財) 建築技術教育普及センター公式HP

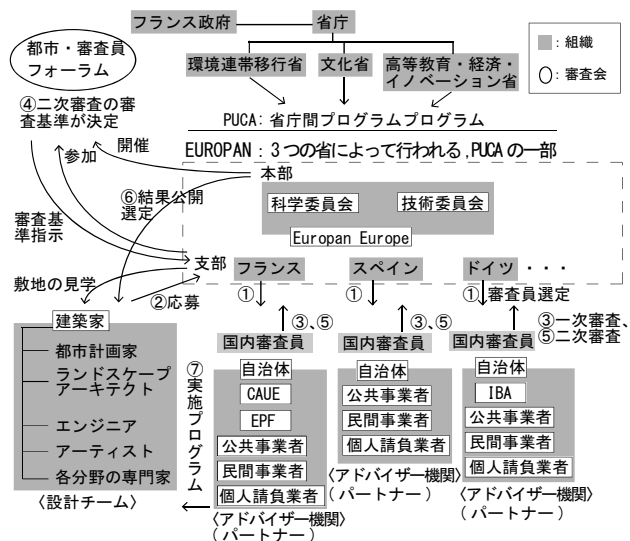


図1. EUROPAN における審査の体制

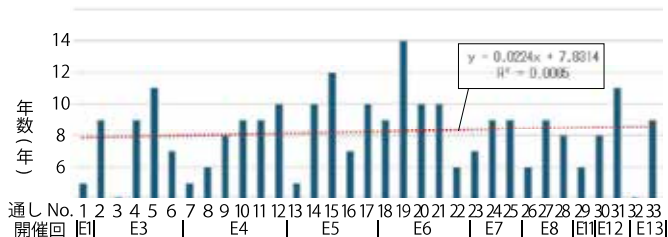


図2. 設計競技から竣工までの年数

表 4. E17 設計競技の日程

		日付	期間	テーマ・敷地			審査			費用		
通し 番号	E17におけるプロセス			本部	支部	設計者	本部	支部	設計者	本部	支部	設計者
1	インターセッションズフォーラム E16/E17 の開催 (クレルモン・オーヴェルニュ・メトロポール (フランス))	2022 11/3 11/5	3 日	準備期間 143 日	フォーラム開催	支部の代表者の投票でテーマ決定	審査員メンバー承認	審査員7〜9人選出・報告				
2	敷地受付	11/6 2023 3/26	140 日		テーマを公式HPで開示、敷地受付			審査員とともに敷地フリーを決定		2年まで全体合計75千ユーロ	フランス7万5千ユーロ	
3	公式 HP 登録と敷地のフォルダダウンロード開始 (登録後閲覧可)	3/27 6/30	96 日	募集設計期間 203 日	敷地のフォルダ公開				登録	100千ユーロを支部より収集 (毎年同じ額収集している)	スペイン4万5千ユーロ	
4	応募者との敷地見学 (対面 or オンライン)	4/15 6/15	62 日		敷地見学							
5	敷地とルールに関する質疑の受付	6/2 6/16	15 日		質疑受付							
6	応募作品提出	7/30 8/1	1 日									
7	応募作品提出リストの一時的な公開	7/31 8/1	2 日				作品提出リストの公開・最終提出リスト公開	作品提出/他者の提出リストを閲覧可			ドイツ15万ユーロ (フォーラム旅費を含む)	作品提出100千ユーロ 修正50千ユーロ
8	最終提出リストの公開	8/4	1 日	審査期間								
9	一次審査 各国で事前に国内審査員を選出	8月 9月	60 日				一次審査通過作品収集	一次審査				
10	都市・審査員フォーラムを開催 (ウィーン)。 国際審査員 (科学委員会、技術委員会) による 審査基準の指示	11/10 11/11	2 日	98 日			フォーラム開催・ 国司審査員が テーマ比較分析				(各国の経済状況により異なる)	
11	二次審査 国内審査員により各敷地ごと受賞者を選定	11月 審査	30 日				二次審査					
12	結果発表公式 HP にて公開	12/4	1 日				結果公開			報酬 Winner (1 位) 1 万 2 千ユーロ (約 200 万円) Runner-up (2 位) 6 千ユーロ (約 100 万 円)		
13	受賞結果発表から 1 か月以内に設計者と地権者による話し合いやワークショップの場を提供	12/5	320 日	準備期間			都市の代表者や施主、審査員、受賞チームが会議、敷地調査、ワークショップ、適用調査を行う					
	次のテーマを決めるための準備を行う	2024			本部が支部にテーマを問う。支部から準備されたテーマを収集							
14	インターセッションズフォーラム E17/E18 を開催 (マドリッド (スペイン))	10/17 10/19	3 日	フォーラム開催	テーマの決定							

表 5. 参加数に対する一次審査通過数、受賞チーム数の割合

開催年	期間	登録地(万戸)	登録数(組)	参加(組)	参加数の平均値(組)	参加率(%)	一次審査通過(組)	一次審査通過率(%)	1位(組)	2位(組)	入賞者数(人)	受賞テーマ(組)	二次審査通過率(受賞率/%)
E1	1989. 1-1990. 1	0	2300	800	0.0	35	未		45	39	0	84	
E2	1990. 1-1991. 1	49	4100	1422	29.0	35	未		43	41	0	88	
E3	1992. 1-1994. 6	48	4500	2230	46.5	50	未		44	41	0	85	
E4	1994. 7-1996. 12	65	4500	2434	37.4	54	未		51	59	0	110	
E5	1997. 1-2000. 6	63	3540	1700	27.0	48	未		50	63	48	161	
E6	2000. 7-2002. 12	65	3900	2100	32.3	54	未		55	60	63	178	
E7	2003. 1-2004. 4	67	3750	2010	30.0	54	未		57	62	67	186	
E8	2004. 5-2006. 4	74	3116	1618	21.9	52	未		61	82	60	203	
E9	2006. 6-2008. 5	73	3227	1752	24.0	54	383	21.9	63	69	65	197	51.4
E10	2008. 6-2010. 5	62	4219	2429	39.2	58	431	17.7	56	67	85	208	48.3
E11	2010. 6-2012. 5	49	2705	1826	37.3	68	325	17.8	41	54	54	149	45.8
E12	2012. 6-2015. 3	51	2412	1762	34.5	73	339	19.2	43	63	64	170	50.1
E13	2015. 3-2017. 2	49	1862	1305	26.6	70	310	23.8	44	61	61	154	49.7
E14	2017. 2-2019. 2	44	1353	1003	22.8	74	244	24.3	41	47	48	136	55.7
E15	2019. 2-2021. 2	47	1241	901	19.2	73	230	25.5	44	47	45	136	59.1
E16	2021. 4-2023. 3	40	1102	677	16.9	61	201	29.7	40	41	46	127	63.2
E17	2023. 3-2024. 12	51	1156	815	16.0	71	237	29.1	49	52	57	158	66.7
	平均値	53	2881	1576	27.1	58	300	23.2	49	55	45	149	54.5

表6. 竣工した事例の用途の割合

	集合住宅	公園	宿泊施設	集合住宅と複合した施設	その他施設	合計
フランス	9	3	1	2	0	15
スペイン	6	3	0	0	1	10
ドイツ	3	2	0	1	2	8
合計(施設)	18	8	1	3	3	33
割合(%)	54.5	24.2	3.0	9.1	9.1	100.0

表7. E1 からE3 の用途と事例写真

通し No.	開催 回	順位	国	敷地	通し No.	開催 回	順位	国	敷地	通し No.	開催 回	順位	国	敷地
1	E1	1位	フランス	ポルドー	2	E3	2位	スペイン	アリカンテ公園	3	E3	2位	フランス	ミュールズ
宿泊施設										集合住宅				
														
4	E3	2位	フランス	サント	5	E3	1位	フランス	サント	6	E8	1位	フランス	ランス
集合住宅					集合住宅+店舗					集合住宅				
														

* 静岡理工科大学 理工学部建築学科 学部生

** 静岡理工科大学 理工学部建築学科 教授・博士(工学)

*** 名古屋大学大学院工学研究科 教授・博士(工学)

**** 武蔵川女子大学生活環境学部 講師・博士（工学）

Student, Department of Architecture, Shizuoka Institute of Science and Technology

Prof., Department of Architecture, Shizuoka Institute of Science and Technology, Dr. Eng.

Prof., Graduate School of Engineering, Nagoya University Dr. Eng.

Lecturer, School of Human Environmental Sciences, Mukogawa Women's Univ., Dr. Eng.